

平成21年4月6日

各地区公認審判員 各位

福岡県バスケットボール協会
審判委員長 太田 康治

ルール等の改正について

平成21年4月4日、5日に行われた全国審判長会議にて説明のあったルール等の改正内容について、以下のとおり報告します。新しいマニュアルブック・ルールブックを熟読の上、正しい判定及びルールの適用・処置を行ってください。

※マニュアルブック・ルールブックの該当するページを示しておきますので、必ず目を通してください。

【新たにつけえ加えられた内容】

- 3ON3 競技規則
 - ・“F I B A 3 3” 公式競技規則
- マニュアル
 - ・重要な用語
 - ・審判の動きの4原則
 - ・ゲーム前の話し合い

【マニュアルの変更点の概要】

- ゲーム開始前の合図（P15・16）
 - ・ゲーム開始2分前までオポジット・サイドにいないといけない
- 各ピリオドと各延長時限の終わり（P83・84）
 - ・競技時間が24秒以下になったときの合図を行う
- タイム・アウトと交代
 - ・タイム・アウトの間は、ゲーム開始前と同じオポジット・サイドに立つ
 - ・アクティブ・オフィシャルは、コートに10人がそろっていることを確認する

【競技規則の変更点の概要】

※ページは、競技規則の解説のページ

※競技規則の条文を必ず確認し正しく理解すること

第4条 チーム（P141）

- ・ユニフォームのシャツの下にTシャツを着用することは認められない

第5条 プレイヤーが負傷した場合（P142・143）

- ・タイム・アウトが認められる前に負傷したプレイヤーが交代してしまった場合は、タイム・アウトの間に手当てが終わっても引きつづきプレイをつづけることはできない

- ・負傷したプレイヤーを除くとそのチームが5人のプレイヤーを出場させることができない場合は、15秒に限定せずに、できる限り5人のプレイヤーにプレイをさせる努力をしなければならない

第12条 ジャンプ・ボール、オルタネイティング・ポゼション・ルール（P 148・149）

- ・ジャンプ・ボールのあと最初にコート内でボールをコントロールしたチームの相手チームに変更

第13条 ボールの扱い方（P 151）

- ・旧競技規則第13条 13.2.2の削除

第18条・第19条 タイム・アウト、交代（P 158）

- ・ゴール・テンディングやインタフェアが宣せられたときは、どちらのチームにもタイム・アウトや交代が認められる

第24条 ドリブル（P 160）

- ・バックボードにボールを投げつけてはね返ってきたボールにほかのプレイヤーが触れないうちに触れることはドリブルとなる

第25条 トラヴェリング（P 161・162）

- ・プレイヤーが床にたおれたときの規定の理解

第28条 8秒ルール（P 163）

- ・28.1.3が例外的規定として追加されたことにより、8秒の適用が変更となった
- ・変更点は、プレイヤーがドリブルをしている間にだけ適用されることに注意すること

第29条 24秒ルール（P 164～166）

- ・ショットされたボールであれパスのボールであれ、リングに触れた場合は、すべて24秒はリセットされる（24秒以内にショットをすることの定義を確認）
- ・ショットのボールが空中にある間に24秒の合図がなった場合
 - パーソナル・ファウルが起き、ボールがリングに触れなかった場合は24秒が成立し、ファウルはなかったものとする
 - アンスポーツマンライク・ファウル、ディスクォリファイングファウル、テクニカル・ファウルであったときは、ファウルが先に起こったものとし、ファウルの処置を行う

第 30 条 ボールをバック・コートに返すこと (P 1 6 6 ・ 1 6 7) ※8 秒ルールとの関連

- ・ボールをバック・コートに返すバイオリジョンにはならない例外的規定が追加された (ボールを持っているプレイヤーのみに適用されることに注意)
- ・ポイントは,
「フロント・コートからジャンプ」
「空中で」
「あらたにボールをチーム・コントロール」(したプレイヤーのみに適用)

第 31 条 ゴール・テンディングとインタフェア (P 1 6 7 ~ 1 6 9)

- ・ボールがリングよりも高いところにあるときにバスケットの下から手を入れてボールに触れることは、すべてインタフェアとなる

第 36 条 アンスポーツマンライク・ファウル (P 1 7 0 ・ 1 7 1)

- ・相手チームが速攻を出そうとしているとき、その速攻を止めようとして、その攻撃側チームのプレイヤーとバスケットとの間に防御側プレイヤーが一人もいない状況で、防御側プレイヤーがその攻撃側プレイヤーに対してうしろからあるいは横から触れ合いを起こしたときは、オートマティックにその触れ合いはアンスポーツマンライク・ファウルとなる
- ・これまでの規定にあらたに 1 つ追加がなされたという理解をすること (これまでのアンスポーツマンライク・ファウルの規定はそのまま生きている)
- ・ポイントは,
「チームが速攻を出そうとしている」
「攻撃側チームのプレイヤーとバスケットとの間に防御側プレイヤーが一人もいない」
「うしろからあるいは横から触れ合いを起こす」

第 38 条 テクニカル・ファウル (P 1 7 2)

- ・プレイヤーが「ひじを激しく振りまわす」ことは、テクニカル・ファウルの対象となることが追加された

第 39 条 ファイティング (P 1 7 6)

- ・どんな場合でも、センター・ラインの位置からのスローインとなる

第 44 条 処置の訂正 (P 1 7 9 ・ 1 8 0)

- ・誤りに気づいた時期によって、スロー・インの位置が異なる

第 50 条 24 秒オペレーターの仕事 (P 1 8 5 ~ 1 8 7)

- ・パスのボールがリングに触れたときでも、24 秒計はリセットされる